

美郷町地域ぐるみで取り組む6次産業化基本構想(概要)

2.美郷町の強み

- ①加工グループが多く6次産業化に取り組む文化・風土がある。
- ②発信力・誘引力のある店舗・人が複数存在する。
- ③旧村毎に物流の拠点となり得る直売所を有している。
- ④ふるさと納税の強化による地域経済の活性化の余地が大いにある。

3.美郷町の目指したいこと

- ①「栗での1点突破」による1次産業の発展
- ②各事業者の「儲かる農林業」の促進
- ③観光協会の収益化・産地型商社化

6.展開シナリオの詳細

- ①6次産業化基本構想推進拠点(協議会)の整備
事業者・役場・関係機関等が相互に関係しあうプラットフォームを行政主導で整備する。
- ②テストマーケティングの実施
本基本構想のコンセプトが町にとって実現可能な取り組みか実証するため、テストマーケティングを実施する。
- ③コンセプトの確立
②の結果を踏まえ、コンセプトを確立する。
- ④コンセプトに基づいた誘引事業の実施
コンセプトに基づいた誘引事業の実施と対外的な広報・広告を強化する。
- ⑤コンセプトに基づく補助事業等の整備・運用
コンセプトを実現していく為の補助制度や出資金を募る仕組み、無担保・低金利で金融機関からの融資を受けられる仕組み等の整備。
- ⑥美郷町内でお金を循環させる仕組みの充実
誘引客がお金を落とす関連産業について、より多くの町民が稼げる仕組みを構築する。
- ⑦地域ぐるみでの6次産業化を推進するための拠点施設の整備
担い手機関の育成等により、1次産業の生産基盤を確立し、原材料生産が確保できる体制が担保されることを前提に、地域ぐるみでの6次産業化を推進するための拠点施設整備の検討を進める。

美郷町地域ぐるみで取り組む 6次産業化基本構想の(仮)コンセプト

五感で楽しむ 美食の郷

美郷町でしか味わえない“五感で楽しむ美食”という新しい価値を本町に植え付けることで、1次産業の活性化を図る。また、交流人口の増加に伴い、飲食・観光に付随する物販等での外貨獲得を目指す。その一方で、外貨獲得に必要な産業は可能な限り域内で賄えるよう整備することで、より多くの人が安心して暮らせる持続可能な町を目指す。

5.展開シナリオ

- STEP1. 6次産業化基本構想推進拠点(協議会)の整備(～R元年11月)
- STEP2. テストマーケティングの実践(R元年11月～R3年3月)
- STEP3. コンセプトの確立(～R2年9月)
- STEP4. コンセプトに基づいた誘引事業の実施(R2年10月～)
- STEP5. コンセプトに基づく補助事業の整備・運用(R3年4月～)
- STEP6. 美郷町内でお金を循環させる仕組みの充実・地域ぐるみでの6次産業化を推進するための拠点施設の整備(R4年4月～R6年3月)

7.成果目標(KPI)

※令和元年度～令和5年度の5カ年間の成果目標

- ①中間支援組織の設置(産地型商社等) 1組織
- ②担い手機関の設置(農業生産法人等) 1組織
- ③新商品の開発に取り組む事業体数 5事業体
- ④新商品の開発 20商品

1.美郷町の現状分析

①美郷町の将来推計人口

区分	2015年	2020年	2025年	2030年
総数	5,480	4,809	4,185	3,125
0～14歳	491	423	353	259
15～64歳	2,361	1,872	1,485	1,033
65歳以上	2,628	2,514	2,347	1,833
65～75歳	1,002	1,046	895	483

②美郷町の主要1次産業の現状

- ◆金柑・栗・ゆず⇒JA日向管内の生産を本町が担う
 - ◆町内販売額トップ⇒金柑(野菜・果樹のうち)
 - ◆町内生産面積・生産戸数トップ⇒栗(野菜・果樹のうち)
※栗は他品目との複合経営が多い。
- 美郷町の農畜林産物販売実績(H29.2～H30.1)

区分	販売額	生産量	面積	生産者
金柑	163,599千円	246.8 t	8.6ha	27人
栗	54,280千円	90.0 t	113.3ha	114人

③観光入り込み客数

- ◆高千穂(観光入込客:130万人)からの流入増加検討
⇒所要時間が1時間を超え積極的な検討は困難
- ◆本町の飲食店を目当てに訪れるケースも確認
⇒本町の立地に一切誘引力がないのではなく、目的来訪を促す強いコンテンツが少ない

④美郷町における6次産業化の現状

- ◆地域の特性を活かした農産加工グループがあるが、施設の老朽化、担い手不足の課題がある。
- ◆「株式会社栗処さいごう」による1次産業に付加価値をつけて産地を守る取り組みを進めている。
- ◆1次産品を取り扱う4つの直売所があるが、自走化・収益化に向けた取り組みが必要である。

4.モデル事例分析

- ◆島根県邑南町
 - ◆岡山県西栗倉村
 - ◆鹿児島県肝付町 をモデル事例として分析
- ①お金をどう循環させるかを意識した取り組みがなされている。
 - ②「役場がやる」から周囲は面白いと思うため、行政であることを最大限活用する。
 - ③移住・地域おこし協力隊の確保ありきではなく、様々な取り組みの結果として制度の活用や移住が付随している。
 - ④トップの強い意志と行動力、組織の垣根を越えた動きや情報の共有が町の取り組みを成功に導いている。